

# ヴィシェグラード諸国における 2024年欧州議会選挙

仙石 学  
Sengoku Manabu

## [要旨]

本稿は東欧のヴィシェグラード4カ国（チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロヴァキア）を題材として、2024年6月に実施された欧州議会選挙を軸にこの諸国の選挙前後の政治動向を概観することを目的としている。一般には今回の欧州議会選挙では右派・極右系政党の台頭と穏健勢力の後退が強調されるが、ヴィシェグラード諸国の場合EUに対する支持が比較的高いこともあり、親欧州系の政党が一定の支持を得た一方で、欧州懐疑的な政党に対する支持は限定的な範囲にとどまっている。ただしロシアのウクライナ侵攻の長期化や欧州議会における右派・極右系政党の再編、あるいは2024年後半のハンガリーのEU議長国就任などいくつかの不確定要素は存在していて、これらが今後の動向に影響を与える可能性はある。

## 1 欧州議会選挙とヴィシェグラード諸国

本稿は東欧のヴィシェグラード4カ国（チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロヴァキア）を題材として、2024年6月に実施された欧州議会選挙を軸にこの諸国の近年の政治動向を概観することを目的としている。一般に東欧諸国においては、欧州議会選挙は必ずしも高い関心を持たれている選挙ではなく、そのため以下でもみるように選挙の投票率も通常の国政選挙と比べても低いことが多い。ただそれでも、今回の選挙には現在この諸国で生じつつある政治的な変化がある程度反映されており、これを分析することで現在の動向と今後の方向性についてある程度具体的に検討することが可能となる。本稿は選挙が実施されてから2ヵ月ほどしか経過していない時期に執筆したものであるため分析の行き届いていないところも多いが、それでも今の時点で入手可能な情報をもとに、ヴィシェグラード諸国の現状と今後の方向性について、議論を進めていくこととしたい。

今回の欧州議会選挙に関しては、一般に右派・極右勢力の台頭と中道・左派系勢力の後退という点が強調されることが多いが、ヴィシェグラード諸国に関してはこのような単純な形で選挙結果をまとめるのは難しい。確かに各国においてポピュリズム的な政党は引き続き一定の影響力を有しているし<sup>①</sup>、獲得議席は少ないものの各国において反欧州や移民排斥を強調する政党も議席を獲得している。だが他方でこの諸国においては、欧州指向のリベラルないし穏健保守系の政党もある程度の議席を獲得していて、必ずしもこのグループが勢力を落

としているというわけでもない。以下ではまず各国の状況について概観したうえで、この地域の動向と今後の方向性について整理していく。

## 2 各国の欧州議会選挙の結果とその背景

### (1) ポーランド

ポーランドでは国政選挙や欧州議会選挙が実施されるたびに新たな政党が選挙に参入したりそれまで存続していた政党が議席を喪失して消滅したりすることが繰り返されてきたが、2019年の議会選挙以降は基本的に、リベラル系のKOを軸とする政党の連合体である「市民連合」(KO)と、保守ナショナリストでポピュリスト的な傾向も強い「法と正義」(PIS)を中心とする政党の連合体である「統一右派」(ZP)が二大勢力となり、これにKOの左側に社会主義期の統一労働者党の後継政党となる民主左派同盟を軸とする「左派」(Lewica)、ZPの右側にナショナリズムと反欧州、および経済自由主義を掲げる政党のグループとなる「自由独立連盟(以下『連盟』)」(KWiN)、およびKOとZPの中間に保守系の「農民党」と親欧州派保守の「ポーランド2050」が連携して形成した「第3の道」(TD)を加えた5つの政党グループが議席獲得可能性のある政党として存在していて、この点で現在のポーランドの政党システムはいわゆる左右軸を基準に、ヴィシエグラード諸国の中では相対的に安定している状況にある<sup>(2)</sup>。

このような状況が生じた理由の一つとしては、ポーランドの選挙法の作用がある。ポーランドの欧州議会選挙の選挙法は全国を13選挙区に分けてその中でドント式比例代表制により候補を選出、ただし議席の獲得のためには各政党は全国で5%以上の票を得る必要があるというように<sup>(3)</sup>、基本的には大政党に有利な制度が存在しているということがある。ただそれ以上に現在のポーランドにおいては、2015年以降のPISのポピュリスト指向の強権的、反欧州的な政権運営を経てこれを支持する層とこれに反対する層が大きくわかれ、これがそれぞれの層のグループをある程度結集させる役割を果たした<sup>(4)</sup>。その結果として現在では、ZPと中道リベラル系の3グループ連合の対抗関係が政治システムにおける中心軸となっていて、その外側にZPよりもナショナリズムと反欧州の傾向が強い(がただし経済的にはリバタリアニズムに近い)自由独立連盟が存在するという関係が形成されている。

このような状況の中で実施された今回の欧州議会選挙では、実は明確な争点が存在するわけではなかった。それにはもともと欧州議会選挙は各国における関心が低く一般には投票率も低いことで、特定の争点を前に出して選挙戦を戦うことが難しいということが影響している<sup>(5)</sup>。ただし投票率が低いということは、そのような選挙に行くのは政党のコアな支持層が中心となることが一般的であり、そのことがこれまでの選挙でPISに有利に作用してきたということがある<sup>(6)</sup>。

そこから今回の欧州議会選挙においては、首相かつKOの代表であるトゥスク(D. Tusk)はロシアの脅威とポーランドの安全保障を強調し、そこからPISは反ロシアを装っているが実際にはモスクワの利益に沿った活動をしているという主張をすることで、KOの支持者を掘り起こすという戦略を採択した。この背景にはPISの政権がウクライナからの穀物輸入に

第1表 ポーランドの選挙結果(議席数53、投票率40.65%)

政党名	所属会派*	得票率	議席数	増減
KO	EPP	37.06%	21	+21**
ZP	ECR	36.16%	20	-7
KWiN	ESN/無所属	12.08%	6	+6
TD	EPP/RE	6.91%	3	+3**
Lewica	S&D	6.30%	3	+3**

(注) \*欧州議会における所属会派。所属議員の中に所属が異なる議員がいる場合、それぞれのグループに属する議員が属している会派を併記している。以下の国に関しても同様。

\*\*形式的に今回の各党は新たに議席を得たものとしているが、2019年の欧州議会選挙の際にはそれぞれのグループの主要な母体であったKO、民主左派同盟、および農民党が統一リスト「ヨーロッパ連合」(KE)を形成して参加したため、このKEの獲得議席数(22議席)とこの3党の今回の獲得議席数の差を比較すると、全体では獲得議席の差は+5となる。

(出所) ポーランド共和国選挙管理委員会ホームページ (<https://wybory.gov.pl/pe2024/>)。

反対し、EUが禁輸措置を解除したのちもハンガリーおよびスロヴァキアと禁輸措置を継続したことも作用している。またPISからの批判を回避するためにかつての立場とは異なり、ポーランドとベラルーシの間の国境管理の強化も主張するようになっている。このような主張はまた、KOの親欧州指向と矛盾するものではないため、PISとしても直接的にこれを批判することは難しいものとなっている。

このような動きに対抗してPISの側は、KO側の親EUを直接的に批判するのではなく、EUの近年の施策の中でいわゆる「グリーン・ディール」を批判しこれを止めようという主張を選挙戦では展開してきた。グリーン・ディールは基本的には温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることで人々の生活や動植物の生息環境を守ることを目的とする施策であるが、PISはこの施策に伴うエネルギー価格や物流価格、あるいは各種ビジネスや住宅建設にかかわるコストの上昇、もしくはポーランドの農業や伝統的な生活様式を破壊することを通してポーランドの全般的な生活コストを上昇させ、またそれがドイツを利するものとなるという主張を行うことで、KOを批判するとともに自らの支持者を惹きつけることを目指してきた。

このような状況の中で行われた欧州議会の選挙の結果は、第1表のとおりである。投票率が前回(45.68%)に及んでいないという点ではKOの戦略は必ずしも成功していないようにもみえるが、それでもKO(を軸とする政党グループ市民連合)がPISを中心とするZPを1議席とはいえ上回り第1党となっている。なおKOが各種の選挙において第1党となったのは、2011年の議会下院選挙以来のことである<sup>(7)</sup>。他には連盟が初めて欧州議会において議席を獲得したが、連盟は2019年の欧州議会選挙の後で実施された議会選挙ですでに議席を獲得していることを考慮すると、改めて極右的な政党が進出したというよりは一定の地位を占めつつある政党が欧州議会においても議席を獲得したということで、改めて極右が進出しつつあるとみるのは妥当ではないと考えられる。なお第3の道および左派は今回の選挙では、二大政党の間の対立に埋もれて議席を増やすことはできなかった。

## (2) ハンガリー

ハンガリーでは2010年以降ポピュリスト的で、PIS同様に権威的な手法での政治運営を行うフィデスとキリスト教人民党のグループ「フィデス—ハンガリー市民同盟(以下『フィデ

ス』) (FIDESZ-KNDP) がほぼ一強体制を形成していた。他にはかつての支配政党の後継政党である社会党、社会党から分離して形成された民主連合とリベラルで緑系の「対話＝緑の党」が形成した政党連合 (DK-MSZP-Párbeszéd-Zöldek)<sup>(8)</sup>、およびかつての極右政党「ヨッビク」(Jobbik) から離れたグループが新たに形成したナショナリズム、反欧州政党の「我が祖国運動」(MHM) などが今回の欧州議会選挙に参加する予定であったが、これらのフィデス以外の政党が獲得できる議席は限られたものとなると考えられていた。だが2024年に入り新たに保守系の新政党「ティサ」(Tisza) が登場しこの政党が一定の支持を集めるようになると<sup>(9)</sup>、状況が大きく変化することとなる。

ティサはもともと2022年の選挙に参加する予定で組織された政党だが実際にはその選挙には参加できずにいたところ、2024年になって当時フィデスに所属していたマジダル (P. Magyar) が、オルバーン (V. Orbán) 政権における汚職の広がり、およびオルバーン政権の政策による社会の分断に抗して2024年の2月に離党したのちにこの政党の代表に就任したことで今回の選挙に参加したもので<sup>(10)</sup>、反腐敗とハンガリーの生活の質の向上を主に掲げる中道派という主張を行っている<sup>(11)</sup>。ティサが注目を集め始めたのは、その発言が注目され始めた3月にブダペストにおいて大規模な動員を伴う政治集会を成功させ、その場で保守とリベラルを結びつけるような新しい政治勢力の形成を表明したこと<sup>(12)</sup>、およびその後5月初めには、これまで野党勢力が勢力を拡大することができなかった地方都市の一つデブレチェンにおいて1万人規模の政治集会を開催することに成功したことが大きい<sup>(13)</sup>。

そのような状況の中で実施されたハンガリーの欧州議会選挙の結果は第2表のとおりであるが、今回は投票率が58.47%と過去最高となったのはやはりティサの参加が一定の影響を与えている可能性が高く、また実際にティサは30%近くの票を獲得して第2党の座を確保することに成功した。欧州議会選挙では通常の国政選挙のような性別や世代別、居住地別などの支持に関する詳細な世論調査が行われることは少ないためどのような層がティサを支持しているのか、ということについてはまだ詳細なデータを確認できていないが、どのような層がティサを支持しているのか、またそれはどの程度フィデスから支持を移したのか、ということについては、今後データがある程度出てきた時点で改めて検討する必要がある。なおフィデスは第1党の座は維持したものの得票率は2019年の52.56%から44.82%と大きく落とし、また社民系連合も合計では前回より議席を大きく減らすこととなった。その中で極右系のMHMが初めて1議席を獲得したが、これは前回の選挙でその元となるヨッビクが1議席を獲

第2表 ハンガリーの選挙結果(議席数21、投票率58.47%)

政党名	所属会派	得票率	議席数	増減
FIDESZ-KNDP	PfE	44.82%	11	-2
Tisza	EPP	29.60%	7	+7
DK-MSZP-Párbeszéd-Zöldek	S&D	8.03%	2	-3*
MHM	ESN	6.71%	1	+1

(注) \*前回のMSZPとDKの合計議席からの変動。

(出所) ハンガリー選挙管理委員会 (<https://vtr.valasztas.hu/ep2024>)。

得していたこと、および得票率も前回2019年の欧州議会選挙の際（のヨッピク）が6.34%、今回のMHMが6.71%であることを考えると、ハンガリーでも極右系への支持は必ずしも大きく増えてはいないとみることができる。

### (3) チェコ

チェコは2000年代までは基本的にリベラル系の「市民民主党」(ODS)と「社会民主党」(ČSSD、現在はSOCDEM)の二大勢力の対抗を軸に、ここに中道保守系で二大政党のいずれとも連携が可能な「キリスト教民主同盟＝チェコスロヴァキア人民党」(KDU-ČSL)、および他の政党と連携することの難しい「共産党」(KSČM)の4政党が政党システムを中心となってきたが、2010年の選挙以降新しい政党が入れ替わり立ち替わり選挙に参加するようになり、その結果として議会でも政党システムの多党化が進んでいる。欧州議会選挙に関しても状況が同様で、チェコは配分される議席数は多くない(21議席、ブレグジット後も変化なし)にもかかわらず、比較的多数の政党が議席を獲得するという状況にある。

政党の多数化が進むとそれだけ多様な主張を掲げた政党が選挙に参加するようになることから、ここまで議論してきたポーランドおよびハンガリーとは異なり、チェコにおける選挙の争点は見えにくいところがある。

とりあえず今回の選挙の中心となるのは、現在の与党のうちODS、KDU-ČSL、および「トップ09」(TOP09)により形成された「一緒に！」と(SPOLU!)、2021年まで与党であったポピュリスト系で「既存政治・政党への反対」ということ以外に明確な方向性を有さない「アノ2011(以下『アノ』)」(ANO2011)の対抗関係である。この両政党は与党と野党という対抗関係ではあるが、かつての市民民主党と社会民主党の間のような明確な政策の差はなく、どちらかというアノの党首バビシュ(A. Babiš)の政治手法や汚職疑惑をめぐる対立となることが多い<sup>(14)</sup>。ただアノには反EU的な方向性があり、今回の選挙でもバビシュは争点の一つとしてEUのグリーン・ディールへの反対を表明し、ガスによる発電で生じた電気価格と通常の電気価格の切り離し、内燃機関の禁止への反対、今後課されることになる温室効果ガス排出に対する課徴金の導入反対などを主張している<sup>(15)</sup>。

このアノ以上に現在のEUのあり方に不満を持ち、その変革を主な主張とした政党もある<sup>(16)</sup>。その一つは2政党の連合「誓いとモトリスト」(Přísaha a Motoristé)で、もう一つは共産党が主軸となる政党グループ「十分だ！」(Stačilo!)である。前者は元レーサーで自動車マニアのトゥレク(F. Turek)が代表を務めていて、現在の内燃機関の自動車に規制をかけるEUのグリーン・ディールへの反対と、ユーロ導入並びに移民受け入れへの反対、およびEUにおいて各国の主権を制限するあらゆる改革への反対を唱えている。ただしトゥレクは選挙期間中に過去のネオナチ風の挨拶を行ったように見える写真やギリシャのネオナチ組織が使用していたシンボルがついた写真がネット上に出回ったこともあり、そのネオナチとのつながりに疑義が持たれている。他方の「十分だ！」も移民反対やナショナリスト的な主張を行う左派ナショナリストであるが、同時に現在のリベラル保守政権への強い反対も示していて、現状に不満を持つ層からある程度の支持を得ているとされる<sup>(17)</sup>。

チェコの欧州議会選挙の結果は、第3表に示したとおりである。今回はアノが7議席、「一

第3表 チェコの選挙結果(議席数21、投票率36.45%)

政党名	所属会派	得票率	議席数	増減
ANO2011	PfE	26.14%	7	+1
SPOLU!	ECR/EPP	22.27%	6	-3*
Přísaha a Motoristé	PfE	10.26%	2	+2
Stačilo!	無所属	9.56%	2	+1**
Starostové a osobnosti pro Evropu	EPP	8.70%	2	+2
Ceska piratska strana	Greens-EFA	6.20%	1	-2
SPD a Trikolora	ESN	5.73%	1	-1

(注) \*前回選挙のODS、KDU-ČSL、およびTOP09-STANの合計との差。

\*\*前回選挙のKSČMとの差。

(出所) ハンガリー選挙管理委員会 (<https://vtr.valasztas.hu/ep2024>)。

緒に！」が6議席を獲得したが、アノは前回より1議席増加させたのに対して、「一緒に！」は前回の欧州議会選挙の3党の合計議席よりも議席数を減らしている。この点に関しては、2021年の議会選挙ののちアノに対する支持が復調しているのに対して、「一緒に！」の中心となる市民民主党への支持が失われつつあるという、世論調査の動向とも一致している<sup>(18)</sup>。そして反欧州の姿勢を強めている「誓いとモトリスト」および「十分だ！」もそれぞれ2議席を獲得した一方で、現在の与党であるリベラル系の「市民と無所属」(Starostové a nezávislí: STAN、なおこの選挙には「ヨーロッパのための市長と個人」[Starostové a osobnosti pro Evropu]の名称で参加した)。他方で従来アノとは異なる方向で支持を集めてきたポピュリスト系の2政党(政府の透明性確保と市民の参加を強調する、連立与党に参加している「海賊党」[Piráti]、およびナショナリズムと移民排斥を主張する極右系の「自由と直接民主主義」[SPD、この選挙では欧州懐疑派の「トリコロール」(Trikolora)と連携])は、今回は十分な支持を集めることができず、いずれも議席を減少させた。

なお今回の選挙の投票率は36.45%であったが、これは過去4回の投票率がいずれも30%未満であったチェコにおいては、過去最高の投票率となっている。そして選挙における主要政党の得票率では、アノは前回の21.18%から26.14%へと得票率を伸ばしているのに対して、「一緒に！」に関しては前回の3政党の得票率の合計が33.4%であったのに対して今回は22.27%にまで低下していることから、投票率の伸びはアノに有利に作用したとみることができる。

#### (4) スロヴァキア

スロヴァキアの政党政治は2000年代以降基本的に、かつての共産党の流れを汲む政党から独立したフィツォ(R. Fico)が設立した、社会民主主義を標榜するが実際には欧州懐疑的でナショナリスト傾向が強く、与党の際には極右系の民族派政党とも連携できる「方向—社会民主主義(以下『方向』)」(Smer-SD)と、親欧州派のリベラル系の勢力との対抗関係が軸となってきた。欧州議会選挙直前の状況では、リベラル派は2017年に結成されその後勢力を拡大し、2023年の議会選挙では方向に次ぐ第2党となった親欧州の「進歩的スロヴァキア」(PS)が中心となり、他方では方向とそこから分離した元首相のペレグリニ(P. Pellegrini)が設立

第4表 スロヴァキアの選挙結果(議席数15、投票率34.38%)

政党名	所属会派	得票率	議席数	増減
PS	Renew	27.81%	6	+2
Smer-SD	無所属*	24.76%	5	+2
「共和国運動」(Republika)	ESN/無所属	12.53%	2	+2
Hlas-SD	無所属*	7.18%	1	+1
「キリスト教民主運動」(KDH)	EPP	7.14%	1	-1

(注) \*両党はS&Dの母体となる欧州政党「ヨーロッパ社会主義党」に属しているが、ロシアに対する対応や移民問題、LGBTQ問題などで党の方針に反しているとして、2023年の10月から加盟資格を留保されている。

(出所) スロヴァキア統計局 ([https://volbysr.sk/en/vysledky\\_hlasovania\\_strany.html](https://volbysr.sk/en/vysledky_hlasovania_strany.html))。

した「声—社会民主主義」(Hlas-SD)が2023年の議会選挙以後方向との連立政権に参加し実質的に提携する、という関係が形成されている。

2023年の選挙では、世論において当時のリベラル派連立与党のウクライナ支援に反対する、もしくは移民の増加に不安を持ち国境コントロールを強化することを求める世論が強くなりつつあったことから、フィツォはこれを利用してウクライナへの支援を撤回することと移民対策を強化することを政策の柱として強調し、その結果議会第1党に返り咲くとともに3年ぶりに政権の座に復帰することとなった<sup>(19)</sup>。今回の欧州議会選挙も、基本的にはこの対立関係を軸に展開された。

スロヴァキアの選挙の結果は、第4表に示したとおりである。今回はPSが第1党、方向が第2党となり国会選挙とは逆の形になったが、これは2023年の議会選挙以降の世論調査において方向がやや支持を落としつつあったのに対して、PSは支持率を上げていたという状況であったことがある程度反映されている<sup>(20)</sup>。選挙前にはフィツォ首相に対する銃撃事件も生じたものの、この事件そのものが今回の選挙の結果に大きな影響を与えることはなかった。なお今回の選挙の投票率は34.38%であったが、スロヴァキアではこれまでの欧州議会選挙の投票率が30%を超えたことがなかったことから、欧州議会選挙としては過去最高の投票率となった<sup>(21)</sup>。

### 3 総括と今後の展望

ここまでヴェイシエグラード4カ国の欧州議会選挙とその背景についてひととおり検討してきたが、以下ではこの地域の現状について、地域全体で確認できることと各国ごとの相違なども踏まえながら、整理を進めていくこととしたい。

まずこれは最初でも触れたことであるが、今回の選挙では欧州指向のリベラルないし保守系の政党が、各国において一定の支持を得たということがある。KOおよびPSは僅差ながら第1党となっているし、保守系政党を軸とするチェコの「一緒に！」も比較的善戦している。そしてハンガリーではティサが30%近くの票を獲得して第2党となり、現在も引き続き支持率を上昇させている。このように親欧州系の政党が一定の支持を集めているのには、東欧諸国の場合EUに対する支持が今でもある程度強いことが影響を与えている可能性が高い。

一例として、ポーランドの世論調査機関CBOSの2024年3月の調査において、ポーランドがEUの加盟国であることを支持するという回答者の割合は、それ以前よりやや低下しているとはいえ77%あり、支持しないという17%を大きく上回っている<sup>(22)</sup>。そしてその主な理由としては、EUからの各種の基金の供与や、シェンゲン協定による国境の移動の自由化などがポーランドに恩恵を与えているということが挙げられている。このようなEUに対する強い支持がポーランドにおいてはKOの支持へと結びつき、また逆に連盟のような反欧州系の勢力の台頭を抑制している可能性が高い。

他の国との比較として、2024年春のユーロバロメーターの調査の中にEUへの帰属感を問うものがあるが、これについて「強い帰属感を持つ」「いくぶん帰属感を持つ」の合計をみるとポーランドは72%に達し、スロヴァキアが71%、ハンガリーが69%と比較的高い値を示している<sup>(23)</sup>。チェコのみは両者の合計が40%と低くその分帰属感を有さないという回答が56%と過半数を超えているが、これは必ずしもチェコでEUに対する支持が低いということの意味するわけではなく、2023年に行われた別の調査で、もしEU離脱に関する国民投票が実施された場合どう回答するかという問いに対して、回答者の63%が残ると投票するとしたという情報がある<sup>(24)</sup>。基本的には全体としてこの諸国の有権者はEUへの所属を程度の差はあるものの好意的に捉えていて、それが親欧州系の政党へのある程度の支持と結びついている、そしてまたそれゆえに反欧州的指向の政党への支持はこの地域では必ずしも広まらず、限定的な範囲にとどまっていると考えることができる。

別の論点として、開始から2年以上経過したロシアのウクライナ侵攻が今回の選挙に与えた影響についても、考慮する必要がある。ただしその形は国により相違があり、例えばロシア、ベラルーシ、ウクライナと国境を接するポーランドではこれが直接的な脅威と結びつくこともあり、そこからKOは国境の警備を強化するという主張を行うことでこの問題を選挙の争点から外した一方で、親欧州系の政党がウクライナ支援に積極的であったチェコとスロヴァキアでは、これに対抗する勢力が難民の流入阻止や経済的な負担への反対などから支援の中止を求めて、これを選挙の争点化するという状況がみられた。ハンガリーに関しては周知のとおりオルバーンは当初からロシア寄りの姿勢をとり、また国内でもロシアの侵攻に対する反発より自国が紛争に巻き込まれることを恐れる見方のほうが強かったが<sup>(25)</sup>、今回の選挙でもティサのマジャルがウクライナへの兵器支援には反対と表明したという報道もあり、やはり直接的な争点とはされなかった<sup>(26)</sup>。ただいずれの国においてもこの問題は、今後侵攻が継続した場合何らかの形でより明確に政治的な争点とされる可能性もある。

最後に選挙後の主な動向について、簡単に触れておきたい。注目すべき点はまず右派系政党の再編である。6月30日にハンガリーのフィデスとチェコのアノ、および「オーストリア自由党」(FPÖ)が合同で、新たな欧州議会会派「ヨーロッパのための愛国者」(Patriots for Europe: PflE)を設立することが表明された。これにはその後欧州各国の主要ないわゆる極右系政党が参加を表明し、最終的に12加盟国の13政党、84名の議員により7月8日に新たな政党グループを形成することが公表された。これは欧州議会の中ではEPP(188議席)およびS&D(136議席)に次ぐ第3の勢力となるが、他の政党グループとの連携が難しいことから、

その欧州議会内での影響力は当面は限定的なものにとどまると考えられる<sup>(27)</sup>。

また7月1日よりハンガリーがEU議長国に就任したが、オルバーンのロシアおよび中国寄りの姿勢、並びに議長国の地位を利用しての自国利益の追求に関しては、すでにさまざまなところで議論の対象となっている<sup>(28)</sup>。これから12月までの議長国の任期の期間中にハンガリーがいかなる路線をとるのか、またその「暴走」を他の加盟国がどこまで抑制することができるか、という点については、今後の動向をみていく必要があるだろう。

#### 〈参考〉 主要な欧州議会の政治党派

- ・ 欧州人民党グループ (European People's Party Group: EPP)
- ・ 社会主義と民主主義の進歩的同盟 (Progressive Alliance of Socialists and Democrats: S&D)
- ・ ヨーロッパのための愛国者 (Patriots for Europe: PfiE)
- ・ 欧州保守改革派 (European Conservatives and Reformists: ECR)
- ・ 欧州刷新 (Renew Europe: Renew)
- ・ 緑・欧州自由同盟 (Greens-Europe Free Alliance: Greens-EFA)
- ・ 欧州議会左派 (The Left in the European Parliament: The Left)
- ・ 主権国家のヨーロッパ (Europe of Sovereign Nations: ESN)

- (1) ヴィシエグラード諸国における「ポピュリスト政党」に関しては、ひとまず仙石学「東欧におけるポピュリズムとネオリベラリズム——ヴィシエグラード諸国の事例から」村上勇介編『「ポピュリズム」の政治学——深まる政治社会の亀裂と権威主義化』国際書院（2018年、171-197ページ）を参照のこと。
- (2) なおこれらの政党以外に、ポーランド南西部のオポレ県に拠点を有し選挙法の少数民族条項により下院に議席を獲得してきた「ドイツ少数民族派」(MN)が存在するが、2023年の選挙では規定の票数を獲得することができず議席を失っている。
- (3) ポーランドの選挙法 (Dziennik Ustaw z.2011r, Nr. 21, poz.112、第6部「欧州議会選挙」)の規定による。
- (4) Stefano Fella, "Poland: 2023 parliamentary elections and new government," *Commons Library Research Briefing*, January 20, 2024 (<https://commonslibrary.parliament.uk/research-briefings/cbp-9951/>).
- (5) ポーランドの場合であれば、初期の欧州議会選挙では20%台前半の投票率しかなかった。前回の2019年の選挙は45.68%、今回は40.65%の投票があったものの、それでも通常の選挙の投票率よりは一般に低い。
- (6) Aleks Szczerbiak, "Why does Poland's European Parliament election matter?" *Notes from Poland*, May 28, 2024 (<https://notesfrompoland.com/2024/05/28/why-does-polands-european-parliament-election-matter/>). 以下の記述はこの記事、および上のFella "Poland" をベースにしている。
- (7) ただし2014年の欧州議会選挙では、市民プラットフォームと法と正義がいずれも19議席を獲得し第1党となっている。
- (8) 直前の2022年の議会選挙では、他の中道・保守系の政党も加えた「ハンガリーのための統一」(EM)として選挙に参加したがその後内部対立から分裂し、左派リベラル系の3党が新たなグループを形成した。
- (9) ティサはハンガリー語の略称で、正式名称は「敬意と自由の党」(ハンガリー語で Tisztelet és Szabadság Párt)。

- (10) Tamsin Paternoster, “Hungary: newcomer Peter Magyar shakes Orban’s hold on power, early results say,” Euronews, June 10, 2024 (<https://www.euronews.com/my-europe/2024/06/10/hungary-newcomer-peter-magyar-shakes-orbans-hold-on-power-early-results-say>). なおオルバーンのスペルはaが長音 (á) となるのが正しいが、インターネット記事における記載で長音となっていないものは、以下記事のままのスペルで記載している。
- (11) Angela Skujins and Zoltán Siposhegyi, “Hungary: Orban’s right-wing party wins EU election but loses major support,” Euronews, June 10, 2024 (<https://www.euronews.com/my-europe/2024/06/10/hungary-orbans-right-wing-party-wins-eu-election-but-loses-major-support>).
- (12) Justin Spike, “Challenger to Hungary’s Orbán announces new political alternative to tens of thousands of supporters,” AP, April 7, 2024 (<https://apnews.com/article/hungary-orban-magyar-3a11b8bdee1e7e129214f167d9639b8b>). なお以下の一連の流れについては、石川雄介『『マジャル現象』は保守をもって保守を制するか：オルバーン政権のスキャンダルと保守新党台頭の行方』*Foresight*、2024年6月6日記事も参照 (<https://www.fsight.jp/articles/-/50635>).
- (13) Justin Spike, “Orbán challenger in Hungary mobilizes thousands at a rate demonstration in a government stronghold,” AP, May 6, 2024 (<https://apnews.com/article/hungary-orban-magyar-a6008ec70742125c25e6bdc4464d7e2>).
- (14) これを「ポピュリズム (アノ)」と「反ポピュリズム (市民民主党など)」の対立とする見方もある (Vlastimil Havlík and Jakub Lysek, “The Czech 2021 general election and its impact on the party system,” *Czech Journal of Political Science*, No. 3, 2022, pp. 231–233.).
- (15) Radio Prague International, “Czech opposition and protest parties make strong showing in European elections,” June 10, 2024 (<https://english.radio.cz/czech-opposition-and-protest-parties-make-strong-showing-european-elections-8819521>).
- (16) Radio Prague International, “Czech opposition and . . .”.
- (17) Radio Prague International, “Czech opposition and . . .”, Jana Juzová, “In Czechia, combustion engines and migration in the spotlight,” *The German Marshall Fund of the United States (GMF)*, June 13, 2024 (<https://www.gmfus.org/download/article/23386>).
- (18) Albin Sybera, “Record Czech poll support for ANO as its leader adopts Kremlin-appeasing narrative,” Business news from Eastern Europe, Eurasia, the Middle East and Africa, March 12, 2024 (<https://www.intellinews.com/record-czech-poll-support-for-ano-as-its-leader-adopts-kremlin-appeasing-narrative-316415/>). なおここでは、ウクライナに対する与党との対応の相違 (バビシュによる「チェコが戦争に引き込まれている」発言など) も影響を与えている可能性があることが指摘されている。
- (19) Nigel Walker, “Slovakia: 2023 general election and formation of a new coalition government,” *Commons Library Research Briefing*, October 13, 2023 (<https://researchbriefings.files.parliament.uk/documents/CBP-9860/CBP-9860.pdf>).
- (20) Europe Electsに掲載された世論調査データより (<https://europeelects.eu/slovakia/>).
- (21) これまでの欧州議会選挙で最も投票率が高かったのは、2019年の選挙の際の22.78%であった。
- (22) CBOS “20 lat cz?onkostwa Polski w UE,” *Komunikat z badan*, Nr 43/2024.
- (23) European Commission, Standard Eurobarometer 101: Public Opinion in the European Union, Data annex, April-May, 2024 (<https://europa.eu/eurobarometer/surveys/detail/3216>). なおEU加盟国の平均は両者の合計で61%。
- (24) Aneta Zachová, “Czechs want to stay in the EU, poll shows,” *Euractiv*, May 24, 2023 (<https://www.euractiv.com/section/politics/news/czechs-want-to-stay-in-the-eu-poll-shows/>).
- (25) Nigel Walker, “Hungary: 2022 general election,” *Commons Library Research Briefing*, April 11, 2022 (<https://commonslibrary.parliament.uk/research-briefings/cbp-9519/>).

- (26) Oleh Pavliuk and Kateryna Tyshchenko, “Hungarian opposition politician opposes providing weapons to Ukraine despite calling Putin an aggressor” *Ukrainska Pravda*, June 19, 2024 (<https://www.pravda.com.ua/eng/news/2024/06/19/7461481/>).
- (27) 例えば欧州議会の常設委員会の議長職からは排除されている（欧州議会のページの情報より：<https://www.europarl.europa.eu/news/en/press-room/20240722IPR22991/committee-chairs-and-vice-chairs-elected>）。
- (28) Armida van Rij, “Orbán is using Hungary’s EU Council presidency to bulldoze EU norms,” *Chatham House*, July 11, 2024 (<https://www.chathamhouse.org/2024/07/orban-using-hungarys-eu-council-presidency-bulldoze-eu-norms>).
- \* 以上ホームページの情報は、2024年7月30日時点で接続を確認している。